

色々意見を言うと、教育振興計画で有って、スポーツ基本計画ではないので、詳細には記載出来ないとされます。独立したスポーツ基本計画が無いのは、全国で宮崎県と他1県のみである。であれば、この教育振興計画の中で、詳細に記載するのが、筋ではないでしょうか？総合型にクラブに関して、県としての明確なビジョンが無いから、大分県や熊本県に比べ、大きく後れを取っていることの最大の原因ではないでしょうか？



第二次 宮崎県教育振興基本計画 (改定版 素案)

未来を切り拓く 心豊かでたくましい 宮崎の人づくり



宮崎県・宮崎県教育委員会

都道府県でスポーツ基本計画が独立して策定されていないのは、2県のみである。

〔目次〕

第一章 第二次宮崎県教育振興基本計画の改定にあたって	-----	1
1 計画改定の趣旨及び方向性	-----	2
(1) 計画改定の趣旨	-----	2
(2) 計画改定の方向性	-----	3
2 計画の性格	-----	3
3 計画の期間	-----	3
第二章 本県教育の現状と課題	-----	5
1 本県教育を取り巻く社会情勢	-----	6
(1) 少子高齢化・人口減少時代の到来	-----	6
(2) グローバル化の進展	-----	6
(3) 資源・環境の問題の顕在化	-----	7
(4) 地方分権の進展	-----	7
(5) 科学技術の進展	-----	7
(6) 大規模災害への対策	-----	7
2 本県教育の現状と課題	-----	8
(1) 就学前教育について	-----	8
(2) 学校教育について	-----	9
(3) 家庭や地域の教育について	-----	13
(4) 生涯学習や文化・スポーツ活動について	-----	14
第三章 本県の目指す教育の姿	-----	17
1 目指す県民像	-----	18
2 本県が総合的・計画的に取り組む施策	-----	18
(1) 基本的な考え方	-----	18
(2) 施策の目標	-----	19
施策の目標Ⅰ 県民総ぐるみによる教育の推進	-----	19
施策の目標Ⅱ 社会を生き抜く基盤を育む教育の推進	-----	20
施策の目標Ⅲ 宮崎や日本、世界の将来を担う人財を育む教育の推進	-----	21
施策の目標Ⅳ 魅力ある教育を支える体制や環境の整備・充実	-----	21
施策の目標Ⅴ 生涯を通じて学び、文化・スポーツに親しむ社会づくりの推進	-----	22
(3) 主な成果目標及び指標	-----	23
(4) 施策の体系	-----	24
3 計画の全体像	-----	26



◆宮崎県シンボルキャラクター みやざき犬

第四章 本県が総合的・計画的に取り組む施策	-----	27
施策の目標Ⅰ 県民総ぐるみによる教育の推進	-----	28
施策1 学校・家庭・地域や企業・市民団体等が一体となって 取り組む教育の推進	-----	28
施策2 家庭や地域の教育力の向上	-----	31
施策3 開かれた学校づくりの推進	-----	34
施策の目標Ⅱ 社会を生き抜く基盤を育む教育の推進	-----	36
施策1 就学前教育の充実	-----	36
施策2 確かな学力を育む教育の推進	-----	39
施策3 豊かな心を育む教育の推進	-----	43
施策4 健やかな体を育む教育の推進	-----	47
施策5 生きる力を育む読書活動の推進	-----	50
施策6 特別な支援が必要な子どもに対応した教育の推進	-----	52
施策7 人権が尊重される社会を目指す教育の推進	-----	54
施策8 幼保・小・中・高等学校の一貫性のある教育や 大学等と連携した教育の推進	-----	56
施策の目標Ⅲ 宮崎や日本、世界の将来を担う人財を育む教育の推進	-----	58
施策1 ふるさと宮崎に学び、誇りや愛着を育む教育の推進	-----	58
施策2 地域課題解決に参画する意識や態度を育む教育の推進	-----	61
施策3 キャリア教育・職業教育の推進	-----	63
施策4 グローバルな視野を持ち、宮崎や日本、世界で活躍する 人財を育む教育の推進	-----	67
施策の目標Ⅳ 魅力ある教育を支える体制や環境の整備・充実	-----	70
施策1 教職員の資質向上	-----	70
施策2 公立学校における安全・安心の確保と防災教育等の推進	-----	74
施策3 公立学校の教育環境の整備・充実	-----	77
施策4 私立学校の振興	-----	80
施策5 高等教育環境の充実	-----	82
施策の目標Ⅴ 生涯を通じて学び、文化・スポーツに親しむ 社会づくりの推進	-----	84
施策1 生涯学習の振興	-----	84
施策2 文化の振興	-----	86
施策3 スポーツの振興	-----	90
第五章 計画の推進	-----	95
1 計画の実効性の確保	-----	96
2 計画の推進に向けて	-----	96
(1) 県民総ぐるみによる推進	-----	96
(2) 県教育委員会と市町村教育委員会との連携	-----	96
3 施策推進のための管理指標	-----	97
資料	-----	103
1 改定の経緯	-----	103
2 明日の宮崎の教育を考える懇話会委員名簿	-----	104

第二次宮崎県教育振興基本計画の改定計画素案

スポーツに関する部分の抜粋

第二章 本県教育の現状と課題

2 本県教育の現状と課題

ウ スポーツ活動

スポーツは、個人の心身の健全な発達に重要であり、最近は、健康・体力づくりに対する意識の高まりがみられます。県の調査結果をみると、週に1回以上運動・スポーツを行っている県民の割合は、**44.0%**となっています。

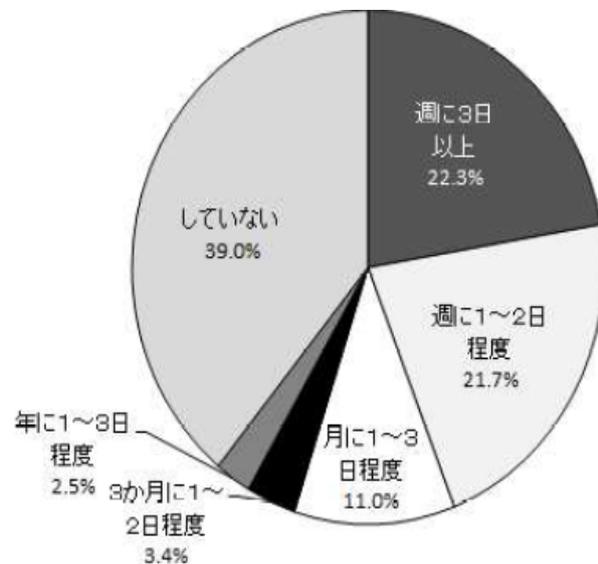
今後は、生涯にわたりスポーツに取り組むことについて県民の意識を高めるため、スポーツを支える環境の一層の充実を図ることが必要です。

また、競技スポーツの分野は、県民のスポーツへの関心を高め、感動や夢を与えるなど活力ある地域社会の形成に大きく貢献するものです。平成26年国民体育大会の男女総合成績^(注8)は、宮崎国体以来最高となる19位となりましたが、本県の競技力は安定しているとまでは言えない状況です。

今後は、少年期からの一貫した指導体制の確立や指導者の養成など、長期的な視点に立った取組が必要です。

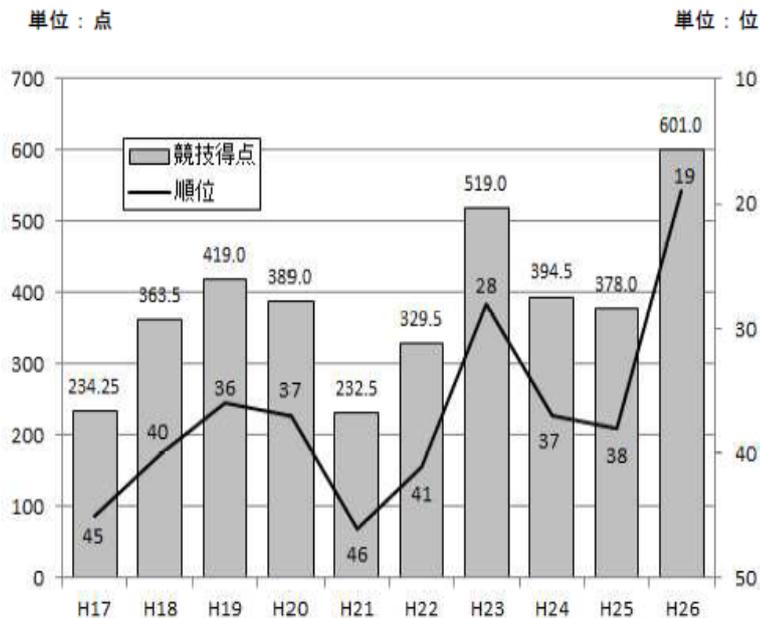
(注8) 「男女総合成績」：国民体育大会は、冬季大会・夏秋季大会を合わせて40の正式競技が実施され各競技の参加得点と競技得点の合計点を男女総合成績としている。

運動実施率は、5年前から、**2.9%ダウン**



平成26年度宮崎県県民意識調査

【国民体育大会の競技得点と男女総合成績の推移】



スポーツ振興課調べ

第三章 本県の目指す教育の姿

2 本県が総合的・計画的に取り組む施策

(1) 基本的な考え方

本計画における「本県が総合的・計画的に取り組む施策」は、その全般にわたって、次のように「横の連携」と「縦の接続」を重視して推進します。

「横の連携」

生涯にわたって様々な学びや活動に取り組んできた地域の人や企業等で活躍する人は、かけがえのない貴重な教育資源です。社会全体で総合的に教育に取り組むためには、県民一人一人がこれまで身に付けた知識や経験・技術などを、学校や家庭、地域における様々な活動の中で生かすことが必要です。

そのため、これまで推進してきた学校・家庭・地域が連携した取組を基盤として、さらに、地域の企業やNPO法人・市民団体等の多様な主体が一体となった取組を、これまで以上に進めるなど、人と人との「絆」、地域における様々な「絆」を深め、社会全体で教育に取り組むための「横の連携」を重視して取組を推進します。

「縦の接続」

「知識基盤社会^(注1)」が一層進展する中では、県民一人一人が、生涯にわたって自己実現を目指すとともに、身に付けた知識や技術などを人材づくりへ生かすなど地域や社会に還元し、学びが循環する社会づくりを積極的に進め、「生涯学習社会^(注2)」の一層の実現を図る必要があります。

そのため、小・中・高等学校等の接続や大学との連携、また学校教育と社会生活等とのつながりを一層深めることが必要です。また、県民誰もが、生涯を通じて学習活動や文化・スポーツ活動等に取り組んだり、地域社会の一員として活動したりしながら自らを磨き高めていく環境づくりを進めるとともに、その学習成果を、地域づくりや子どもたちの教育に積極的に還元できる機会を充実するなど、ライフステージ^(注3)における活動の場をつなぐ「縦の接続」を重視して取組を推進します。

(注1)「知識基盤社会」：新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会のこと。

(注2)「生涯学習社会」：人々が生涯の中で、いつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会のこと。

(注3)「ライフステージ」：人生における段階を意味する。

(例) ①乳幼児期(就学前教育期を含む) ②青少年期 ③成人期 ④高齢期

横の連携、縦の連携と前回の基本計画にも有りましたが、推進委員協議会やクラブ連絡協議会に、連携に関する話し合いなど一度もなかった。

どちらも、名前が出ていないからでしょうか？

(2) 施策の目標

施策の目標Ⅴ 生涯を通じて学び、文化・スポーツに親しむ社会づくりの推進

本県が今後とも輝き続け活力を維持し発展していくためには、県民一人一人が夢や希望を抱き、生涯にわたって、学びを深めたり学び直しをしたり、また、新たな学びに取り組んだりしながら自らを磨き高めることや、文化・スポーツ活動に取り組んだり、挑戦したりするなど、様々な取組の中で自己実現を目指すとともに、身に付けた知識や経験、技術等を社会に還元するなど、学びが循環する社会づくりが必要なことから、次のような取組を進めます。

施策1 生涯にわたって、いつでも、どこでも、誰もが必要に応じて自分に適した方法で学び、学習が生活の一部となる環境づくりを推進するとともに、社会参加やキャリアアップなど多様なニーズに対応した学習機会の提供を進めます。

施策2 県民一人一人が様々な機会を通じて文化に親しみ、生涯にわたり豊かな感性と教養を育むとともに、県内各地の文化財や文化資源が大切に保存・継承され、積極的に活用される環境づくりを推進します。

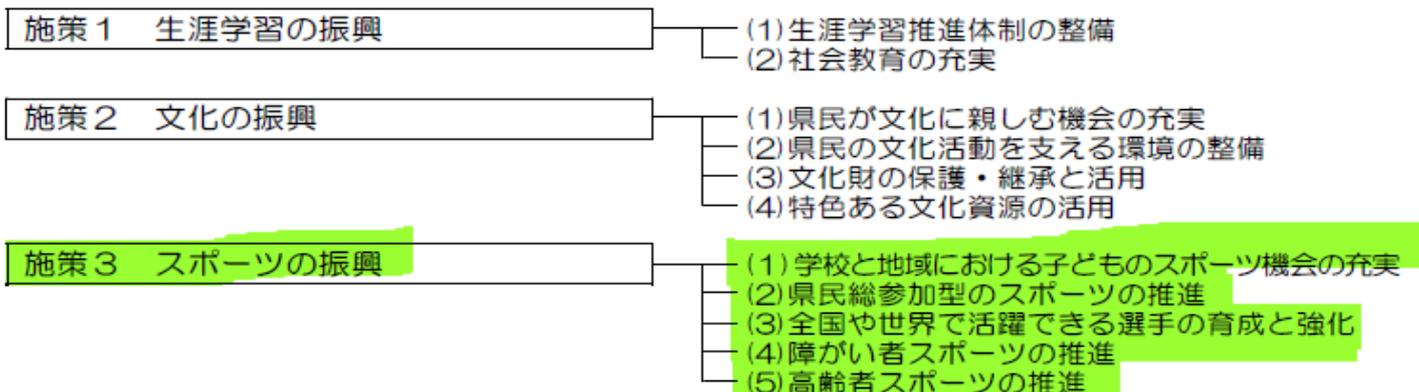
施策3 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実を図り、県民総参加型のスポーツの推進や、全国や世界で活躍できる選手の育成と強化に努めるとともに、障がい者スポーツや高齢者スポーツを推進し、県民誰もが生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう努めます。

前回から、「県民総参加型のスポーツの推進」と有るが、県民総参加型を推進できるとしたら、組織的には、スポーツ推進委員会総合型地域スポーツクラブではないだろうか？

(4) 施策の体系 **勿論どちらも、組織の問題は有りますが?(県の方針が無い)**

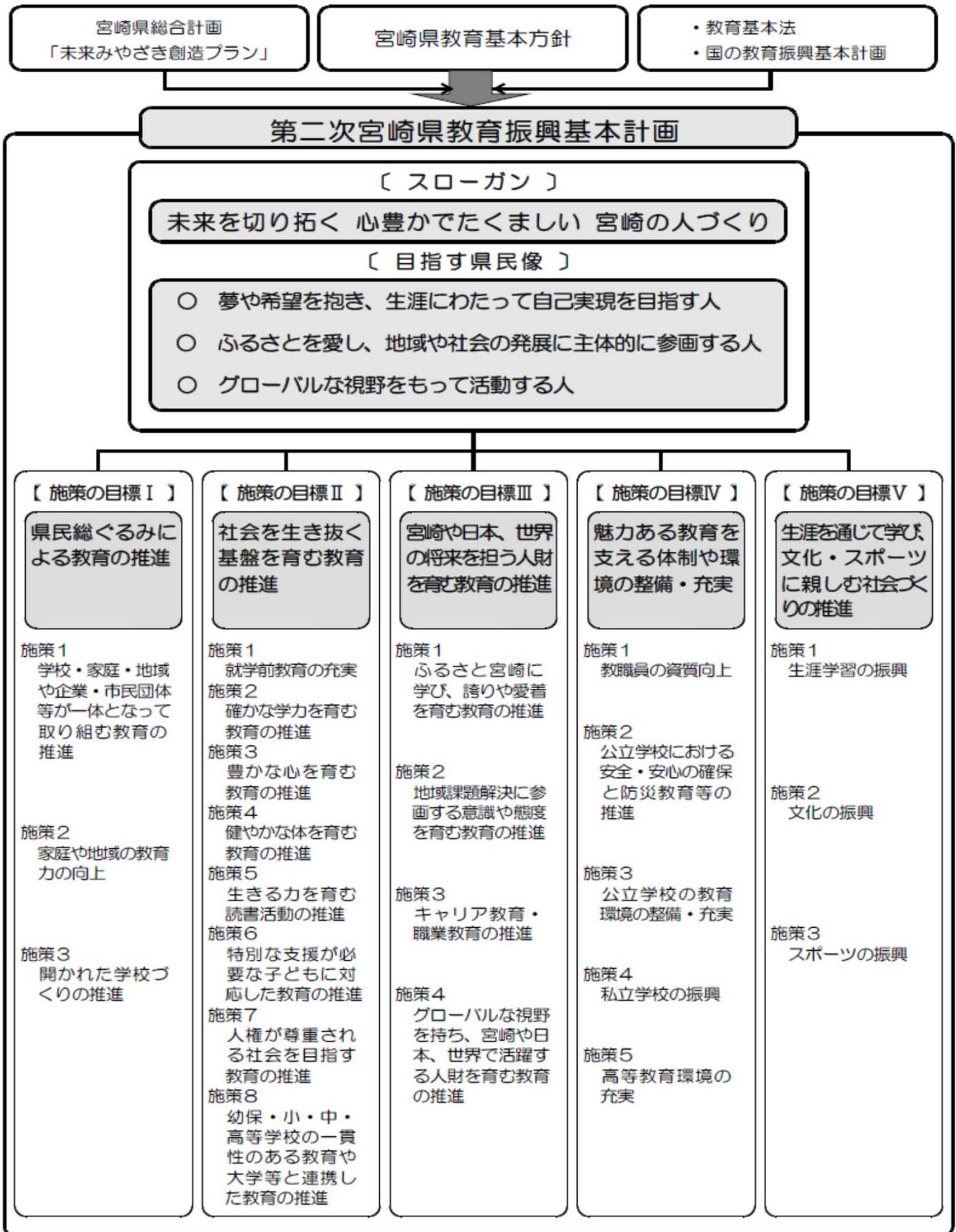
本計画の施策の体系は、以下のとおりです。

施策の目標Ⅴ 生涯を通じて学び、文化・スポーツに親しむ社会づくりの推進



ここでの体系について、(1)～(5)全てを網羅できる可能性が有るのは、総合型地域スポーツクラブのみではないでしょうか？

3 計画の全体像



施策の目標Ⅴ 生涯を通じて学び、文化・スポーツに親しむ社会づくりの推進

施策3 スポーツの振興

現状と課題及び今後の方向性

**クラブを全ての市町村設置では、「総合的に生涯スポーツを推進する」とは、一致しないのでは？
→なるべく中学校区に1つ設立を目指す等と記載すべき**

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が決定するとともに、2巡目の国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の本県開催も視野に入ってくるなど、スポーツや運動に対する機運が高まってきています。

このような中、本県の児童生徒の体力・運動能力の状況は、学校等での取組により徐々に上昇傾向に転じており、平成26年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、全実技調査項目の97.1%が全国水準以上の状況にあるなど、概ね良好な結果を示しています。しかし、依然として体力・運動能力のピークである昭和60年頃のレベルには及ばないことや、積極的に運動に取り組む子どもとそうでない子どもの二極化が見られることなどから、さらなる体力向上に努めるためにもスポーツ機会の充実が必要となっています。

本県の生涯スポーツに関しては、平成26年度の「成人の週1回以上のスポーツ実施率」は44.0%で、全国とほぼ同じ状況にありますが、**総合型地域スポーツクラブ^(注)が15市町村で29クラブまで広がっているものの、全ての市町村に設置するまでには至っておらず、指導者の養成を含めて総合的に生涯スポーツを推進する必要があります。**

本県の競技スポーツに関しては、国民体育大会の男女総合成績は、平成23年度から3年連続で30位台以内を確保するとともに、平成26年度は宮崎国体以来最高となる19位となりましたが、競技力が安定しているとは言えない状況であり、小学生から高校生までの一貫した強化体制の構築や優秀な指導者の養成・確保など、長期的・継続的な視点からの取組を推進する必要があります。また、2巡目の国民体育大会や全国障害者スポーツ大会を見据えながら、スポーツ施設の整備促進を図ります。

一方、各種障がい者スポーツ大会への障がい者の参加者数は、年々増加していますが、障がい者スポーツを推進するためには、今後とも、各種障がい者スポーツ大会や教室等のイベント開催を促進するとともに、様々な機会を通じた指導者の養成・確保などの支援体制の充実が必要となっています。

また、本県の高齢化率は平成26年には28.6%に達し、平成32年には32.5%となり、約3人に1人が65歳以上の高齢者となる見込みです。高齢者が住み慣れた地域において、健康で生きがいをもって暮らしていくためには、運動による健康づくりをはじめ、様々なスポーツに親しむことにより、**社会参加を促進していく必要があります。**

こうした現状と課題に対応するため、**様々な年代の人々が年齢や性別、障がいの有無等を問わず、関心、適性に応じてスポーツに参画できる環境を整備し、楽しさや感動を分かち合いながら、健康で活力ある生活を営むことができる社会を目指し、「スポーツによる人が輝く元気な宮崎づくり」を進めていきます。**

(注)「総合型地域スポーツクラブ」：幅広い世代の人々が、各自の興味関心・競技レベルに合わせて、さまざまなスポーツ等に触れる機会を提供する、地域密着型のスポーツクラブ。

**スポーツ実施率は、5年前より2.9%も下がっている。全国とほぼ同じとの表現は？
1130運動の効果が無いのでは？(現場の意見が届いていない)**

クラブの現状(自立出来ていない)の記載が無い。現状の認識が明確でないと、必要な取組も出来ない。

施策の内容

(1) 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実

学校体育の充実により運動に親しむ資質や能力を育むとともに、部活動や地域におけるスポーツ機会を充実することで子どもの体力の一層の向上を図ります。

(2) 県民総参加型のスポーツの推進

1130県民運動の推進や県民総参加型のスポーツ大会の工夫・改善に努めるとともに、総合型地域スポーツクラブの設立と育成や、スポーツ指導者の養成・確保等を通して、誰もが生涯にわたってスポーツに親しむことのできる環境づくりを推進します。

(3) 全国や世界で活躍できる選手の育成と強化

質の高い指導者の養成・確保と体系的な指導体制の充実、競技力を支えるサポート体制の充実に努め、全国大会やオリンピック、パラリンピックなどで活躍できるトップアスリートの育成と強化を推進するとともに、2巡目国体や全国障害者スポーツ大会を見据えながら、スポーツ施設の整備促進を図ります。

(4) 障がい者スポーツの推進

障がい者スポーツ指導員やスポーツ推進委員等との連携を図りながら、各種障がい者スポーツ大会や教室を計画的に開催するとともに、障がい者スポーツクラブの活動を活性化させ、また、指導者の養成・確保に取り組むことにより、多くの障がい者がスポーツに親しむことのできる環境づくりを推進します。

(5) 高齢者スポーツの推進

宮崎ねんりんピックや全国健康福祉祭などの開催を支援するとともに、地域における活動を通じた仲間づくりやリーダーの養成を進め、スポーツを通じた高齢者の生きがい・健康づくりや社会参加を促進します。

主な取組

(1) 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実

ア 学校の体育に関する活動の充実

- 各学校における体力・運動能力調査結果を踏まえ、「立腰指導」、「一校一運動」などを含める体力向上プランの計画的・継続的な実践の推進を図るとともに、体力づくり優良校の取組の紹介と表彰などを行います。
- 小学校体育授業へ専門的な指導者の派遣を行うとともに、武道指導者講習会や運動部活動指導者研修会等を実施し、体育・保健体育の授業や運動部活動など、学校の教育活動全体を通じた取組の充実を図ります。

イ 子どもを取り巻く地域のスポーツ環境の充実

- 子どものスポーツ参加の二極化傾向を解消するため、キッズスポーツ教室や認定こども園・幼稚園・保育所等の指導者を対象とした研修会を開催するなど、スポーツとの出会いを支援するとともに、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等における子どものスポーツ機会を提供する取組を推進します。

小学校体育授業への派遣：宮崎は、市へ予算要求中。

県でも、総合型クラブと連携して推進するなどの文言に変更できないか？

(2) 県民総参加型のスポーツの推進

ア スポーツ参加機会の拡充

- いちいちさんまる
 ・1130県民運動（1週間に1回以上、30分以上は運動やスポーツをしよう）の普及・啓発を通して、スポーツ実施率の向上に努めます。
- ・県民が参加しやすいスポーツ大会を開催するとともに、市町村や関係機関・団体と連携しながら健康教室を開催するなど、地域における運動機会の充実に取り組みます。

いちいちさんまる 【1130県民運動】



ザッキー

◆宮崎県生涯スポーツ推進キャラクター

イ コミュニティの中心となる総合型地域スポーツクラブの設立・育成支援

- ・地域住民が主体となって、だれでも、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツが楽しめる総合型地域スポーツクラブの設立に向けた取組を促進し、県内全ての市町村での設立を目指します。
- ・総合型地域スポーツクラブの企画運営をサポートするアシスタントマネジャー養成講習会等の開催、クラブアドバイザーのクラブ訪問による設立や運営全般についての指導・助言、指導者情報の提供、主催事業の支援等を通して、クラブの活性化に向けた支援に努めます。

資質向上以前に、委嘱の在り方と、県の推進委員に対する明確な方針が無いことが問題。

ウ 地域のスポーツ指導者等の充実

- 市町村スポーツ推進委員の資質向上を目的とした研修会や、スポーツボランティア養成講習会を開催するなど、地域住民の多様なニーズに応えられる指導者やボランティアの養成・確保を図ります。

(3) 全国や世界で活躍できる選手の育成と強化

ア 選手の育成強化

- ・各関係団体等と連携を図りながら、ジュニア期からの優秀選手の発掘・育成や競技力向上推進校、競技力強化推進校の指定と支援など、一貫指導体制の構築やジュニア層の育成に努めるとともに、社会人受け入れなどを推進することにより、本県競技力の更なる向上を図り、将来的にオリンピックやパラリンピックなどで活躍できる選手を育てます。



◆長崎がんばらんば国体（2014年）ソフトボール競技成年男子優勝

クラブの育成支援は、従来の踏襲で現状の問題を解決するための具体策が無い。クラブが必要としていることとは、ほど遠い。

前頁に続く

クラブマネジャー養成講習会やアドバイザーのクラブ訪問も、有るに越したことはないが、県クラブ連絡協議会との連携として、総合型の広報支援や県協議会の自立に向けた支援、指導者の派遣の支援などの文言に変えないと、従来の範囲での支援しか期待でき無い！

イ 指導者の養成・確保

- 優れた資質を備えた指導者を確保し、県外の競技力の高い先進校や企業チーム等へ派遣研修を実施するとともに、県内外の優れた指導者による講演会・研修会を開催することにより、指導者としての資質を高め、中長期的に安定した競技力の維持・向上を目指します。

ウ 競技における支援体制の充実

- 国際大会や国民体育大会等に参加する選手への支援やスポーツトレーナーの養成、障がい者アスリートや女性アスリートへの支援、顕彰制度の推進、メディアとの連携を図るなど、トップアスリートを支える環境や条件を整備します。
- スポーツ施設については、2巡目の国民体育大会や全国障害者スポーツ大会などを見据えながら整備促進を図るとともに、県民の健康増進や地域スポーツの拠点として有効活用を図ります。

(4) 障がい者スポーツの推進

ア スポーツ活動の充実

- 県障がい者スポーツ大会の開催及び全国障害者スポーツ大会への選手派遣等を通じて、障がい者スポーツの普及を図るとともに、民間団体等が行うスポーツ等に関する取組を支援します。
- 障がい者スポーツの普及・定着のために、施設職員や障がい者スポーツ指導員、**スポーツ推進委員**等との連携を図りながら、各種スポーツ大会・教室を計画的に開催し、できるだけ多くの人が参加できるよう市町村や市町村教育委員会、各種競技団体とも連携を図ります。



◆全国障害者スポーツ大会

イ スポーツ指導者の養成

- 障害者スポーツ初級指導員養成を行い、宮崎県障害者スポーツ指導者協議会の活動を支援するなど、人材の養成に取り組むとともに、障がい者スポーツ指導者の派遣を推進します。
- 各種障がい者スポーツ大会参加助成を通して、全国大会や九州大会の経験が豊富な指導者との交流を図り、指導者の養成を図ります。

(5) 高齢者スポーツの推進

ア スポーツに親しめる環境の充実

- 宮崎ねんりんピックや全国健康福祉祭などの開催を支援することにより、スポーツを通じた生きがいや健康づくりを推進します。
- 各市町村における健康づくりリーダーを養成し、健康ウォーキング教室等におけるスポーツ活動を通じた仲間づくりや社会参加を促進します。
- 市町村や関係団体と連携し、日頃運動をする機会が少ない方を対象にした「健康づくり教室」を開催するなど、高齢者の運動・スポーツ参加機会の拡充を図ります。



◆宮崎ねんりんピック

(1)～(5)の全てに取り組めるのは、総合型地域スポーツクラブのみでは、ないでしょうか？国の基本計画は、総合型クラブへの期待や支援が、多く記載されているが、県のこの計画は、国のスポーツ基本計画とは、大きくかけ離れていませんか。まだまだ、10年以上の感覚のずれを感じませんか？

未来を築く新しい「ゆたかさ」への挑戦
(宮崎県総合計画「未来みやざき創造プラン」基本目標)

スポーツによる人が輝く元気な宮崎づくり

